

水土里ネット八田

八田土地改良区は、金沢市北部、河北潟の東側にある、八田町の農地 75haを管理している。

「八田」という地名の由来には、3つの説がある。まず、白山山麓の八田から移住してきたため、次に、潟の端(はた)の水田、即ち端田(はした)がなまったため、最後に森下川の沖積地を治田(開墾)して村を造ったので、この「治田(はりた)」が「八田」となったというものである。この地名からも分かるように、八田地区は河北潟と関わりが深く、かつては生活の中心が漁業だった。しかし、昭和30年ごろから漁業が衰退し、主要産業が農業へと移行するのに伴い、基盤整備が実施されるようになった。

この辺りは、低湿地帯であるため、排水対策が大きな課題であった。そのために、まず基盤整備として、昭和32年から河北潟の泥土を利用した客土工事が実施され、乾田化も図られた。この基盤整備の実施により、かつての交通手段であった舟が不用になり、農道の整備が急務となった。昭和51年から県営



生物調査

かんがい排水事業が実施され、町内に張り巡らされた舟入川の埋め立てと八田川の改修が行われた。また、昭和50年代には農地の地盤沈下が著しくなったため、平成元年から同5年にかけて団体営土地改良総合整備事業が行われ、再度の客土工事、ポンプ揚水によるパイプラインの敷設および、排水路の改修が行われた。なお、平成8年には、用水源である森下川の水害が宅地にまで及ぶようになったため、県営湛水防除事業で排水ポンプ場の設置と八田川のさらなる拡幅工事も併せて行われた。

平成19年度から土地改良区では、ほ場を再整備するため、14.7haで基盤整備促進事業を推進する一方、平成16年度から地元住民の協力を得て花いっぱい運動を行っている。また昨年度からは、農地・水・環境保全向上対策で「グリーンネット八田」の代表として、清掃活動や生物調査、景観形成のための植栽などを実施し、地域と連携した活動を積極的に行っている。



住 所：金沢市八田町東 525
設立年月日：昭和27年 3月17日
受益面積：75ha
理事長：小林 博 紀
組合員数：224名
職員数：1名

(平成20年7月1日現在)

編集兼：小林 善 隆
発行人

金沢市古府1丁目197番地
石川県土地改良事業団体連合会
電話 076-249-7181

印刷所：(株)谷 印刷

